

あしや市民活動センター直近のセミナー紹介

3月26日(土)午後1時30分～

○ボランティアの活躍場所をご紹介します。

ティータイム交流会 ボランティアと施設のマッチング会

○毎年恒例になっています、ボランティアと施設のマッチングを今年も開催いたします。

- ・私、こんな特技があるんですけど、どこかボランティアとして活かしたい!
- ・社会貢献をはじめて見たいけど、どうやってはじめて良いかわからない
- ・芦屋の地域と触れ合う機会が欲しい 等々

マッチングをご希望の方、施設(高齢者、児童、自治会、学校他)ご担当者の方、是非ご連絡ください!



昨年、特技ボランティアとして楽器演奏・マジック・バルーンアート・プチミュージカル・伝統芸能など披露していただきました。また福祉施設の関係者にも多数参加いただきました。(写真も昨年実施分)



「あしや市民活動センター」情報紙

かわらばん

第12号
11/2/28
発行

発行：あしや市民活動センター（指定管理者：(特活)あしやNPOセンター）〒659-0064 芦屋市精道町5番11号
TEL:0797-26-6452 FAX:0797-26-6453 HP <http://www.ashiyanpo.jp> E-Mail : aia@ashiyanpo.jp

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> □市民活動のための助成金獲得講座開催 <ul style="list-style-type: none"> ・助成金書類の書き方講座 . . . 2面 □All Ashiya 新年交流会 開催報告 . . . 2,3面 <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演『新しい市民活動の形』 ・次世代からのメッセージ、他 | <ul style="list-style-type: none"> □交流事業紹介 . . . 4面 <ul style="list-style-type: none"> ・3/26 ボランティアマッチング交流会開催
市内のボランティアと受入れ施設のマッチング ・3/12、22 NPO 相談開催!
NPO 法人を立ち上げたい方、活動を促進させたい方など、お待ちしております。 |
|--|---|

NPO 相談日を定例化しました。

3月12日、22日開催 NPO ソーシャルビジネス相談会実施中!

あしや市民活動センターでは、定例のNPO活動、ソーシャルビジネス相談会を月2回開催しています。ご相談をご希望の方は、ご連絡ください。(日程が合わない方は、別途調整させていただきます。)

こんな相談者、お待ちしております

- ・法人格を取得して、今活動している市民活動を活性化したい!
- ・ビジネス経験を活かして、新たなソーシャルビジネスをはじめてみたい。
- ・何か、生きがいになる活動をしてみたい。
- ・趣味や技能を活かした活動をしてみたい。他

相談対応項目

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ・イベント開催相談 | (企画立案、事業計画立案他) |
| ・事業運営 | (組織運営、人事マネジメント、助成金獲得) |
| ・NPO等法人設立相談 | (NPO法人、財団・社団他) |
| ・NPO会計 | (年度末の提出書類、経理作業等) |
| ・広報力Up | (ホームページ開設、ポスター作製等) |
| ・その他 | (会員募集、世代躯体、他団体連携等) |

◆市民活動団体のための 助成金獲得講座開催(2月17日開催)

あしや市民活動センターセミナー事業の一環(今回は10月にポスター作成講座開催)として、市民活動団体向けの助成金獲得講座を開催いたしました。セミナー事業は、主に市民活動団体向けの運営能力向上のために行っており、本年はアンケート調査を行った中で人気の高かった広報と助成金獲得に関してセミナーを行いました。

セミナーは3部構成で行い、第一部助成金獲得のノウハウ伝授(講師:あしやNPOセンター理事 國枝哲男)、第二部は近隣にある助成団体(助成金を出している団体)の担当者、並びにあしや市民活動センター事務局から近隣から全国までをカバーした助成金情報に関する説明があり、第三部には、事前に申し込み頂いた団体からの個別助成金獲得相談を受けました。

第一部：助成金獲得ノウハウの伝授：

第一部では、市民活動団体が利用できる資源(人材、資金、情報など)の説明や助成金・補助金・委託・自主資金・寄付金などの個別の資金の特性についてお話しいただきました。また、現在募集中の助成金の中で取りやすい案件に関し、それぞれの特徴や申請書の書き方に関して、具体的なアドバイスを頂きました。

第二部：近隣から全国規模の助成金情報の紹介

第二部では、芦屋市の行っている震災・防災活動への助成金制度であるフェニックス基金に関して担当の青田課長から、小口ながらも非常に使い勝手のよいその制度をご説明頂きました。(締切：イベントの20日前) また、金額が比較的大きく、地域に密着した助成金制度であるは〜とふるファンド(締切 3/18)に関して、ファンド事務局の江口さんから財源の特徴や、今までの獲得者の傾向に関して具体的なアドバイスを頂きました。

最後に、当センター事務局より、昨今の財団の情勢や全般的な書類の書き方、また助成金獲得に向けての当センターの活用に関する説明をさせて頂きました。

あしや市民活動センターでは、助成金情報や獲得支援を行っています。どうぞ、気軽にご相談ください。



あしや市民活動センター

□利用の案内

- ・利用時間：午前10時～午後5時(月曜～土曜日)
- ・休館日：日曜日・祝日(国民の休日)・年末年始

□アクセス

- ・精道小学校北側 旧消防署の北の道を東に100メートル
- ・「阪神芦屋駅」・阪急バス「阪神芦屋停留所」から東に徒歩2分

□連絡先：

〒659-0064 芦屋市精道町5番11号
TEL: 0797-26-6452 FAX: 0797-26-6453
Eメール aia@ashiyanpo.jp



All Ashiya 新年交流会開催報告

◇今年も市民活動団体の“ヨコ”つながりを支援します。

昨年度も開催しました All Ashiya 新年交流会を1月22日(土)市民センターにて開催しました。この事業は芦屋市の市内中間支援団体交流事業の一環として、市民・市民活動団体からの要望の高い団体間の交流、他分野の方との交流の促進を目指し開催しております。当日は、50団体、100人以上の方にお集まりいただき、基調講演での意見交流やその後に開かれた交流会で情報交換と親睦を深めていただきました。

一基調講演『新しい市民活動のカタチ』新しい公とその実践に関して

隣接する神戸市東灘区を拠点に活躍している特定非営利活動法人コミュニティーサポートセンター神戸(通称:CS神戸)の中村順子理事長に、現在全国で取り組まれようとする『新しい公共』に関する情報提供や、芦屋の市民活動の傾向についてお話しいただきました。



『新しい公共』とは?

中村理事長は、“新しい公共”とは、市民一人一人が自身の居場所と出番を通じ、“公”を共に支え合う社会であると述べられました。

“公”とは、今までは官が独占していたと言われている事業領域ですが、これからは、その部分を開放する仕組み作りが始まっており、芦屋市でも、市民が生きがいを持ちながら市を応援してゆく事が必要なのではないかと提案されました。

『芦屋の強みと弱み』

隣町から見た芦屋の特徴として、快適な住環境や多様な人材などの多くの強みを列挙されて下さった一方で、市民活動やコミュニティの特徴として、『自己完結主義』(=「助けて」と言い出しにくい)点や、『砂岩体質』(=団体間の横のつながりが出来づらい)土地柄なのではという点を指摘されました。

会場からの質問

- Q1: 地域の消防団活動をずっと続けているが団員が減り続けている。何かいいアイデアはないでしょうか?
A: やはり、活動を広めていくことが重要ですが、他の地域では、小学生や中学生などのキッズ防災団を作ったり、消防団が中心になって防災マップを作る中で、広がってきている事例がある。ひょうご防災未来館を利用して、直接団員募集をするよりも、周囲からジワジワと団員になりたい環境を作っていくことも大切だと思います。
- Q2: 講演を聞いて、セクター(企業・行政・市民の旧来の役割)を超えて活動していかななくては行けないと、強く感じたが、実際中村理事長はどのように活動をされていかれたのですか?
A: 私たちは反論をするのではなく、指定管理者制度を受託し、“担いつつ、変える”事を大事にしている。まずはやりながら、少しずつ変えることが必要な場合もある。そのなかで、どんどん新しい提案、地域で何が求められているか、足りていないかを提案していく。そんな時は、単体とするのではなく、このようなネットワーク非常に大切になってきます。行政とは手を結び、ただと言うことはしっかりとと言う姿勢は崩しません。
- Q3: 事例にも出た、高齢者のカレッジと同じく、芦屋川カレッジ学友会で活動している。来年度は修了生が700人を超える状況にあるが、このネットワークを使って、地域に貢献する活動をしたい。
A: あしや市民活動センターに行ってください。(笑) 色々なニーズが集まっていますので、学友会とのネットワークでは、メンバーの特技を集め、市民活動センターでは、市役所の担当者との市内の課題を考え、マッチングすることが大切です。

次世代からの芦屋に対するメッセージも

一 芦屋の次世代からのラブコール



まずオープニングは、あしや市民活動センターの登録ボランティアの中西直行さんの、ビブラフォン演奏で幕が開きました。軽やかなスタンダードジャズが会場の雰囲気を和らげました。

次に今回は初めての取り組みとして、未来の芦屋を担う市内在住の若い世代からの、メッセージが発信されました。高校2年生の野島佑宇さん、中学2年生の池田奈津美さん、村井孝輔さん、小学校4年生の桜井千尋さんの4人の若者たちです。芦屋の好きなところ、不便なところ、もっとよくなって欲しいところなど、率直な意見交換が行われました。4人は、演劇活動を通して芦屋の歴史を学んだり、朗読で震災の追体験をするボランティアなどで芦屋市とつながりを持ち強い愛着を感じています。

メッセージより抜粋

■芦屋の好きなところ

- ・海と山が近いのに、買物にも便利な場所。
- ・四季折々の山の景色が好き
- ・娯楽施設はないのが、市民のお祭りや、足湯など他にはない楽しみがある。

■不便なところ

- ・最近公衆電話がなくなってきて、学校帰りなど、家族に連絡するのが大変。
- ・南芦屋浜に公共施設が集まってきているけれど、公共交通機関では少し不便。

■もっと広げて欲しいところ

- ・トライやるウィークや交流会など、大人やいろんな人と交流する機会があると楽しい。
- ・震災を経験したことによる、人々のつながりがこれからも続いていくまちになってほしい。



一 参加者アンケート結果より

講演内容に関して

- ・居場所と出番と言うキーワード。ほのぼの喫茶ように朝の時間、話せる場所があることを知り良かったと思います。寝たきりになる前に居場所がおしゃべりできる場所、いいですね。
- ・もう少し発言の機会、時間がほしい。新しい公共の在り方についてのきっかけづくりとして参考になった。
- ・地域バスの話は良かった。

次世代との交流に関して

- ・学生からの芦屋の想いが聞けた企画が良かった。
- ・オープニングのビブラフォン演奏で待ち時間が和めた。
- ・司会進行の高校生がうまかった。
- ・今後の地域貢献活動の推進のヒントを貰えた。
- ・若い世代との交流を続けていってほしい。イベント参加だけでなく、日常に於いて関わって欲しい。交流手段方法も考えられたい。趣味は自分と人の為に、と中村さんの講演で趣味講座を知らせて欲しい。他

一 一回の取り組みに関して

来年度も、この市内中間支援団体交流事業「AllAshiya 交流会」は継続して開催する予定です。(夏と春の年2回) 次回は参加者同士の意見交換の時間を多く設ける企画をします。内容について、ご希望がございましたら、あしや市民活動センターまでご連絡ください。(担当: 植田)